



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
~~~~ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ~~~~

☆6月の目標

- ☆「学習のまとめをしよう」
- ☆みんなとなかよくしよう
- ☆笑顔であいさつしよう

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

☆保護者の会から

- 1 保護者便り
- ☆図書室よりお知らせ
- ・新しい本の紹介

☆今後の行事計画

- ・6月24日 1学期終業日
- ・8月 5日 2学期始業日
- ・9月23日 運動会



☆かんさつきょうく文

二年二組 「つるつるりんご」

きょう学校でりんごをかんさつしました。そのりんごに黄色のつぶつぶをしたものが五十こぐらいありました。においをかいだら、あまくて、いいにおいがしました。さわると、かたくてカンカンなりました。色は、真っ赤でした。形は、まんまるでした。長さは、ハセンチメートルでした。大きさは、めざましどけいぐらいのおおきさでした。



☆かんさつきょうく文

二年二組 「木にある虫」

おそとにいきました。そのとき、木を見たらせみのかわをみつめました。そして、さわったらちよっときもちよかったです。ぼくは、三十こぐらいみつめました。小さいです。長さは、二センチメートルでみじかいです。においはありません。色は、ブロンズで中は、くろときいろでびっくりしました。



☆わたしの海外生活

三年一組 野中 じゅり

わたしは、五か月のときにインディアナ来ました。それからずっとここにすんでいます。だから、アメリカが自分に国のような気がします。わたしにとっての海外は、日本です。わたしは、一年に一回日本へ行きます。そして、日本の学校に行きます。スクールバスにはのりません。日本の学校には、給食があつて「全部食べなさい」と、先生に言われます。アメリカは、全部食べなくてもいいです。日本は、一日にたくさん科目を勉強します。アメリカでは、スペシャルの科目が一日一つ五分だけです。わたしは、毎年日本に行くとき、行きたくない気持ちになります。なぜかと言うと給食を全部食べないといけません。だから、お母さんが「給食は体にいいから食べなさい」と、言うので、がんばって食べています。



☆わたしの海外生活

三年一組 山さき ほか

わたしの海外生活は、四年半ぐらいいです。はじめは少しこわかったけれどだんだん慣れてきました。わたしは六才でした。けれど、今、お姉ちゃんは十一才、わたしは、六月に九才です。わたしは、コロンバスにすんでいます。げんち校でわたしは、三年生です。友だちとは、べちゃくちやしゃべっています。それでアメリカは、すごくすきです。



☆わたしの海外生活

三年一組 たき本 さすけ

ぼくは、二年半アメリカで海外生活をしています。すんでいる所は、グリーンキヤッスルです。すごくへいわでしずかで動物がたくさんいてしぜんがいっぱいいます。アメリカのすきなところは、みんな明るくておもしろいです。おもしろいテレビ番組やかっこいいようふくがいっぱいあって楽しいです。おいしい食べ物やかわったおかしがすきです。だから、ぼくはアメリカがすきです。らい年日本に帰るから、友だちと思いたい出をもっとつくりたいです。



☆二年三組

フリッチ

山下 かお

わたしは、五月三日にフリッチをはにつけました。フリッチの色はオレンジです。フリッチをしているあいだは、ガムとかかたいものは食べられません。いやです。どうしてかという、ガムがすきだからです。そして、はみがきをたくさんしないといけないです。学校でもしないといけないのはいやです。いつもくすぐったいのもいやです。

☆二年三組

えいごの本

清水 千え

わたしは、はじめてえいごの本をかってもらいました。けんちこうで先生に、「いぬのおまわりさん」という本をよんでもらって、とてもおもしろかったの、ママにかつてもらいました。まだえいごは、よめないけれど絵がともたのしくて、すこしだけわかるからどんどんよめます。はやく、えいごがよめるようになって、この本がぜんぶわかるようにみたいです。

☆二年三組

アートショーに選ばれたこと

鈴木 ひろのすけ

ぼくのすんでいる町でアートショーがありました。ぼくがかいた絵は、カップケーキです。にまいかきました。一つは、クレヨンと絵の具でかきました。もうひとつは、絵の具で描きました。ぼくは、えらばれてうれしかったです。らいねんもまたがんばりたいとおもいます。

☆五年二組「名前をつけてよ」を読んで

瀬古 菜名

この物語は、主人公の春花と勇太、子馬に名前をつけるという出来事があったおかげで、勇太の優しさに気づき、勇太との関係を深めることができたという話だ。

わたしはこの物語の後、二人は友だちのような関係になっていくと思う。これは、春花が勇太に積極的に話しかけたからだと思う。

わたしにも、似たようなことがあった。わたしがクラスの京香ちゃんや友だちになりたいと思っていた時、私たちはしばらくだまっていた。思い切って自分から積極的に話しかけてみると、あんがい相手も答えてくれてだんだん友だちになっていった。このことがあったから、自分から話しかけることは大事だと思っ

☆五年二組「名前をつけてよ」を読んで

江泉 大地

この物語は、主人公の春花と勇太、りく、牧場のおばさんがでてきます。春花は牧場のおばさんに、子馬に名前を付けてほしいとたのまれました。でも、子馬は、よそにもらわれることになり、春花も名前を付けられず悲しんでいました。その様子を見ていた勇太が次の日に、紙で折った子馬をもって来ました。その子馬に名前を付けてといわれていました。春花はありがとうと心の中でつぶやきました。勇太は、はずかしがったけど、春花を元気づけました。友だちになれそうでした。なぜそう思ったかという

ぼくがアメリカに来た時、アメリカ人がやさしくしてくれました。学校で本を読むとき、発音を教えてくれたり、英語のスペルを教えてくれました。こ

まったときに、助けてくれました。ぼくは、やさしくしてもらって、うれしかったです。そして、だんだんとアメリカ人の友だちができていきました。だから、春花と勇太もきっと友だちになると思います。

☆三年二組

ぼくのおかあさん

竹内 しゅんすけ

ぼくのおかあさんは、まい日、朝早くおきて、いつもおべんとうを作ってくれます。べんきょうで分らないところをおしえてくれたり、やさしくしてくれます。

いつもありがとうござい

☆三年二組

ぼくのおとうさん

影山 れお

ぼくのお父さんは、いつもやさしいです。お父さんは、サツカーがじょうずです。ぼくも、サツカーをやっているの、いっしょにできるのがたのしいです。お父さんは、ときどきたまごやきを作ってくれます。お母さんが作るたまごやきもすきだけど、お父さんがつくるたまごやきもすきです。

